

# 清秋の風に吹かれ 会津の川辺は 黄金色に染まる

会津若松から「秋」を追う



【右ページ】山裾にブナの原生林が生い茂る只見川。この一帯は見事な紅葉を見ることが出来る。樹海ライン沿いにある登山口は、秋の尾瀬沼を目指す登山客で賑わっていた。  
【写真上】下郷町代付付近で撮影した鶴沼川(つるぬまがわ)。渓谷の木々が織りなす紅葉が秋の盛りを見せてくれる。近くには湯野上温泉があり、紅葉狩りの観光客に人気だ。  
【写真中】只見川の次に訪れた伊南川(いながわ)。南会津の山々を源流とする清流だ。落ち鮎釣りを楽しむ人がちらほら見えた。只見町黒谷付近で撮影。  
【写真下】鶴沼川付近、下郷町の峠を登ると羽鳥湖があり、しばらく進み右折すると「明神の滝」が現れる。小さな滝だが滝壺から仰ぐと迫力がある。峠道の果樹園ではりんごが収穫期を迎えていた。



日が暮れるのが早くなり、風は冷たくなってきた。厚手のコートを取り出し車に乗り込む。春夏と追いかけてきた会津の川辺は今、一年で一番美しい季節を迎えているはずだ。まずは国道352号線を走らせ、福島県と新潟県の県境にある奥只見を目指すことにした。

352号線は沼田街道から樹海ラインへと呼び名を変え、広大なブナの原生林が黄金色に輝いている。もう少し行くと只見川(たみがわ)の源流だ。今は廃村となった赤岩平付近で車を止め、樹海の中へと道なき道を行く。数年前にも訪れたことのある場所だが、相変わらず樹海は深く、なかなか足が進まない。小枝を分け入りながらしばらく行くと、ブナ林の間からやっと只見川が見えてきた。水面のきらめきを背景に、見事な紅葉が幾重にも重なり合っている。今日の撮影場所はここに決めることにした。

谷の斜面にカメラをセッティングし、息を整える。きんと張り詰めた空気がほてった身体に心地よい。風が吹くと色鮮やかな落ち葉が舞っていき、黄金色の天蓋の下、木漏れ日を見上げながら、ゆっくりとシャッターチャンスを待った。